

BrightEyes 瞳を輝かせて

輝

人と人との交流を大切に

三好町国際交流協会・国際交流員

宮代 カレンさん (三好丘桜)



▶▶▶プロフィール

みやしろ・かれん 1957年生まれの46歳。アメリカ・アリゾナ州出身。23年前に来日。三好町国際交流協会の国際交流員で、通訳や講師などを行なう。趣味はテニス。

「海」外での経験や体験、不思議に思ったことなどを自由に話し合うと面白いですよ」と話すのは、三好町国際交流協会(MIA)の国際交流員として通訳や講師などの活動をしている宮代カレンさんです。
宮代さんは、アメリカ・インディアナ州コロンバス市から親善大使が来町したときやカナダの国際大会が開催される時など、外国人との交流がある場合、その間に入って通訳や翻訳などの活動をしています。「通訳のときに心掛けていることは、その人が本当に伝えたいことは何かを考えるながら通訳することですね。またMIAのイベントなどで講師として自分の体験を話すこともある宮代さん。交流会などで参加者から「外国語を身に付けるにはどうすればいいですか」と聞かれる

と「本当に身に付けたいのであれば、英語なら英語を話す人しかいない環境に身を置きなさい。そうすれば、初めは辛いかもしれないけれど、何とかして話せるようになるものです」と親身になって答えます。

宮代さんが日本に来たのは23年前。アメリカの大学院に通っていたころ、日本に行くと、生の日本語を身に付けられ、面白い仕事ができるのではないかと、最初は英語の講師として名古屋に来ました。「日本に来た当時、日本語で話せたのは、こんなに嬉しい言葉くらいでしたね。生徒に英語を教えながら、自分は英語学校の事務所の人に、これは何て言つの、この場合は何て言えばいいの、などと聞きながら勉強しました。」

最近では、企業の海外進出などで、外国人と接する機会が多くなりましたが、「国際化や国際人は、単に外国語が話せるとか、外国人と接する機会が多いということではなく、心の在り方のことだと思っています」と話す宮代さん。誰でも心のどこかで、外国人に限らず自分と違う習慣がある人や接し方をする人を敬遠しがちだと思いがちですが「表面的なことではなく、同じ人間としてその人のありのままを受け止め、その人とふれ合うことができるかどうか大切なのではないでしょうか。育ってきた文化や環境が異なっても、同じようなことを心配し、また感じるんだということを、交流会などを通して分かってもらえればうれしいですね」といいます。

国際交流のイベントに興味があっても、参加する最初の一步が出ないことがあります。宮代さんは「国際交流員として少しでも参加者の後押しができ、またみんなで輪になって自由に意見交換などができればいいですね」と瞳を輝かせます。

みつけたみよしの はつらつさん

楽しみは仲間とのゲートボール

三浦 松夫さん (明知上)

「若いころからいろいろなスポーツをしてきたけれど、ゲートボールが一番面白いかな」と話す三浦松夫さん。明知上チームのメンバーと一緒に週3日、半日ほど練習しています。今年のは町のゲートボール大会などで、31勝5敗という好成績を残しました。「ゲートボールは、お互いが信頼し合わなければならぬ。なにかうまくいかない、チーム対抗の戦略性が高いゲームです。若い人にも参加してもらって、一緒に楽しみたいですね」。

三浦さんが現在、日課にしていることは写経。会社を退職してから、趣味で字を書くことと始めて始めました。「朝に2時間ほど掛けて般若心経を書いています。書いているときは無心になり、日によって思いどおりに書けたり、書けなかったり。これでその日の体調が分かるんですよ」といいます。

「これから力をいれて取り組んでいきたいことは、ウォーキングとパソコンかな」ととても意欲的な三浦さん。いつまでも元気で頑張っていってください。



▶▶▶プロフィール

みうら・まつお 昭和4年生まれ74歳。運動が得意で、若いころから野球、弓道、クレ射撃など、多くのスポーツに取り組む。今はゲートボールを主に楽しんでいる。家庭菜園で野菜などを育てるのも楽しみの一つ。

がんばれ! みよしっ子

三好中学校 男子バレー部

三好中学校の男子バレー部を紹介します。顧問の山本俊輔先生とキャプテンの小澤良祐君に話を伺いました。



「声を出すこと」をモットーに、夏の西三河大会出場を目指して練習に励むバレー部。練習では、部員みんなで声を掛け合いながら、一つ一つのプレーを大切にしています。小澤君は「基礎をしっかり身に付け、簡単なミスをなくしていきたいです」と話します。

山本先生は「やっつけて楽しい、コンビバレーが出来るチームを目指していきたい」と話し、部員たちへ「時間や規則を守るといった基本的なことを守ると、プレーにもいい方向で現れるので、そういったことにも取り組んでほしい。より上のレベルを目指せば、辛いことも多いがその分バレーの楽しさも味わえるので、頑張っていこう」とエールを送ります。

小澤君は「疲れてくるとだんだん声が出なくなり、意思の疎通ができず、簡単に取れるボールでも取り損ねてしまつてことがあります。そんなときこそ、率先して声を出し、しっかり部員をまとめて、チームを盛り上げていきたいです」と抱負を語っていました。

